

# 住みよい下大野

## 第50号

令和6（2024）年3月15日発行

下大野市民センター内 「住みよい下大野をつくる会」  
311-1131 水戸市下大野町 6094-1 Tel 029-269-1288

p.1 三世代交流お月見会

p.2 スポーツフェス／皆コーまつり

p.3 グラウンドゴルフ／下小子ども見守り隊／

常澄駅前をもっと明るく／福寿の集い／市民センター運営審議会

p.4 下大野風土記／慶事／編集後記／編集部員

## 三世代交流お月見会

三世代交流事業のお月見会が令和5年9月28日（木）に4年ぶりに下大野市民センターにおいて、開催されました。満月がよく見える午後6時より受付が始まり、参加者全員におはぎが配られました。

会場は飾り付けがすみ、お月見会らしくなり、大野みろくばやしの演奏で盛り上がり、三浜盆踊りが始まりました。参加者で輪になって楽しく踊りました。

また、室内では俳句・川柳を詠むそれにマジックショーが実演されました。最後に水戸高等特別支援学校寮生の合唱で盛り上がりました。

下大野地区会の実行委員会の皆様、地元関係者の皆様大変お疲れさまでした。また来年も宜しくお願い致します。（市毛）

## スポーツフェス

10月8日(日)コロナ禍による長い自粛生活が開け、地区対抗の運動会から自由参加型のスポーツイベントとして下大野地区第1回スポーツフェスを常澄健康管理トレーニングセンターで開催しました。これも一重に各地域の役員の皆様や実行委員会として協力して下さった各種団体の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。



さて、今回のスポーツフェスは大きく2つの柱を掲げて取り組みました。1つは握力・体組成・前屈など、自分自身の体力を実感してもらう事。2つ目はニュースポーツなど各種競技の体験を通してスポーツの楽しさや地域の方々の親睦を深めるというものです。

その中でも前屈測定の最高記録



(23.5cm)を80代の女性の方が出した事が印象に残りました。今回参加者の方に配布した健康記録手帳を活用し、この女性のようにスポーツを通して楽しみながら健康年齢を伸ばせる下大野地区を目指して行きたいです。(後関)



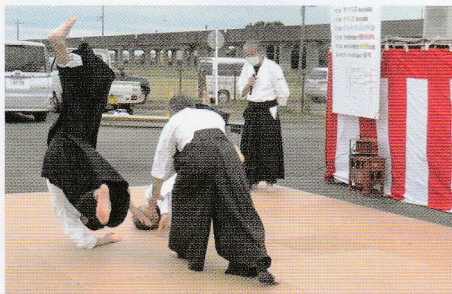
## 下大野サ皆コーまつり

11月26日(日)皆コーまつりが下大野市民センターで行われました。新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に引き下げられ、かつての活気が戻りました。

皆コーまつりは市民が「見て」、「参加して」、「楽しめる」、秋の恒例行事です。



屋外では、華麗に踊るフラダンス、合気道の極意の披露、健康体操と一緒に踊ろう(ソーラン節)、屋内では、下大野小学校みろくばやしの皆さん方の普段の練習の成果が披露され、大勢の観衆の目を楽しませました。



模擬店ブースでは、打ち立て茹でたての常陸秋そば、焼き芋、焼きそば、おやじの会のフランクフルトなど、女性防火クラブの豚汁は無料で振る舞われ、美味しいものをたくさん食べて楽しめました。



まき餅大会も大盛況小さい人から大人まで夢中、童心に戻ったようでした。



災害時に役立つロープワークの紹介とツイストパン焼きが初登場です。非常時対応です。



学習室には、つるし雛クラブ、ちりめんクラブの皆さんが持ち寄った思い思いの作品や展示があり、図書コーナーにはフラワーアレンジメントが訪れた皆さんの心を和ませていました



県立IT短大技術体験や下大野小学校、常澄中学校、水戸高等特別支援学校作品展示、お月見会俳句、書道クラブ、作品展示、折り紙体験など多様な行事で、誰でもが参加して主役になれるおまつりです。

皆コーまつりは手作りのお祭りです。やっと元のようにできましたが、これからはより多くの住民参加を期待したいです。(荻谷)

## グラウンドゴルフ

第3回グラウンドゴルフ大会が、晴天の11月5日(日)いこいの村 廻沼で開催されました。競技は、1コース当たり8ホールを3コース周り、最小スコアの方が優勝となります。これは、男子の部、女子の部、子供の部に分かれます。

参加者は50名弱で、4人1組で競技します。私は、地区会からの参加要請で始めてグラウンドゴルフを体験しました。参加者年齢は70歳台が大半ですが、皆さんは非常に元気がよく明るい雰囲気ではつらつとしていて、こちらも元気をもらい、楽しくプレイできました。



今後の地域交流としては、手軽にできるこのグラウンドゴルフが幅広く地域に根付いて皆さんの活力となることを望みます。(市毛)

## 下小子ども見守り隊

8年前になるのでしょうか？私は下大野小学校の評議員をさせて頂きました。私の家の周りには小学校に通う児童たちがおらずさでどうしたものかと考えました時、登下校時の立哨ボランティア募集があることを知りました。

早速学校に申し込みそれから、下大野1・2区の児童を、常澄駅に通ずる鹿島線高架下の所で登校時の立哨を始めました。児童たちは約3kmの道のりを歩きます。

私は2km地点で児童たちを待っています。縦一列に班長さんを先頭に無駄口せずに歩く班、時には肩寄せながら楽しそうに歩いてくる班、班長さんの後ろから少し間を空けて歩いてくる班とそれぞれですが、「おはようございます」、

「行ってらっしゃい」の挨拶と小学校からのお便り「豊穰」での情報をもとに児童たちの学校での様子をお話ししたりして少しの会話も楽しんでいます。

そして後ろ姿を見送りながら「今日一日楽しい一日でありますように！」とエールを送ります。



11月に下大野市民センターで「子ども見守り隊」が結成されました。現在もご近所からお子さんの元気な声はききませんがこれからも「見守り隊」の一員として皆様とご一緒に、市民センターを軸として児童の安全と成長を見守っていきたいと思います。(栗橋幹子)

## 常澄駅前をもっと明るく

「常澄駅が寂しい、駅前の木にイルミネーションをつけたらどうか？」という提案があり、ならばクリスマスに間に合うようにとイルミネーションを準備しました。

各町内会役員さんにも手伝って頂き、11月に駅前の樹木の周りに生える背丈ほどの雑草の除去を行いました。また、「どこの管理？」ということで、鉄道会社、市に問い合わせ「市の行政財産」であることを知り、市民センター、市民生活課にお世話になり、所轄の道路管理課より樹木の使用許可を頂きイルミネーションを取り付けることが出来ました。(3月末まで/江口)



住みよい下大野 NO 50 P. 3

暗くなってから常澄駅を利用される人々に少しは潤いを届けることができたかな？年の暮れからも続けて行きたいと思いますので、地域皆様のご協力をよろしくお願い致します。(KG)

## 福寿の集い

今年も昨年同様、毎年行われていた敬老会に代わり、75歳、80歳、85歳、90歳以上と年代別に出席され、福寿の集いが開催されました。

社会福祉協議会下大野支部実行委員会の挨拶で始まり、来賓の挨拶がありました。出席者は、年代別にテーブルが用意され、思い出話に花を咲かせていました。

また、イベントはフラダンス、手品がありおおいに盛り上がりました。福寿の集い実行委員会及び地元関係者の皆様の御厚意に深く感謝申し上げます。(市毛)



## 市民センター運営審議会

第2回水戸市下大野市民センター運営審議会が令和6年2月16日(金)に行われました。

全体の利用者はコロナ禍前の令和元年の約9割に回復した、との報告を受けました。



15時30分には、「調理室で火事です、速やかに避難して下さい」と館内放送を行い、避難訓練をしました。

## 下大野風土記 (三か村鼎立常澄高等小学校)

小学校の創設は、明治5(1872)年8月2日、文部卿の学制発布、同6年小学校令の頒布があり、下大野地区に下大野、小泉、塩崎小学校の三校が開校しました。

校舎は、個人宅、御堂等を学び舎に、もっぱら読み書き算術の授業だったようです。

下大野小学校の沿革誌には、明治20年以前の詳しい記録はありませんが、当初の頃は、就学期も4月～3月の通年ではなく、とび進級や落第があったり、同学年齢も一定ではありませんでした。



校舎と生徒 標柱に常澄高等小学校と見える

明治18(1885)年12月、伊藤博文内閣の初代文部大臣に森有礼(もりありのり)が就任しました。森大臣は先ず学校の法整備を図り、帝国大学令をはじめ、小、中、師範学校令を制定しました。小学校令の公布は明治19年4月9日にあり、明治期末までに幾度も改正がありました。

明治19年の小学校令では、小学校の尋常科と高等科があり、就学年限はそれぞれ4か年でした。条文には「6歳より14歳に至る8か年を以て学齢」とあります。これによって、はじめて尋常小学校の義務教育が規定されたのです。

明治22年、市町村制の施行とも相まって度々の改正布達を受け、当時はまた、尋常4年を卒業した生徒がさらに高等科4年の教育を受けることは、経済的にも社会的にも大変難しかった時代でした。

しかし、こうした現状を憂いながらも、下大野村長佐藤翁介、稲荷村長鈴木重左衛門、大場村長飛田忠兵衛らが有志の賛助を得るべく東奔西走して、三村組合規約を起草、組合立高等小学校設立に尽力したのです。よって、明治26(1893)年5月1日、塩崎に仮校舎を設け、

常澄高等小学校を開校することができたのです。場所は県道から常澄中学校へ上る坂の左側、稲荷屋という造り酒屋の家屋が校舎になりました。(写真)

明治41(1908)年4月1日より義務教育が6か年に延長され、各町村では尋常小学校が尋常高等小学校になりましたが、三村域は鼎立の常澄高等小学校があったので、大正5(1916)年までこれを継続しました。しかし、尋常小学校に高等科の併設は国の方針であったため、常澄高等小学校は大正6年3月、閉校に踏み切りました。

当時、生徒が150名ほどいたという常澄高等小学校は廃止になり、

25年余の幕を閉じました。これにより、同年4月1日、本地域には下大野尋常高等小学校が発足、稲荷、大場もそれぞれの尋常科と併設、塩崎の常澄高等小学校の歴史が閉じられました。

「常澄」とは=中世、塩崎から西部の稲荷、大場、酒門地域が恒富(ツネズミ)郷であったことから校名に冠されたものです。(飛田邦夫)

### 慶事

市の発展に貢献された民間自治功労者を対象とする、茨城県市長会の令和5年度自治功労者として、江口会長が表彰されました。



### 編集後記

新型コロナやインフルエンザは、やっと人間の手に負える範疇になってきた感があります。

それに伴い、町内の行事も徐々に復活して行われ始めたことはいずれの限りです。が、しかし、少子高齢化の影響がひしひしと迫ってきていることを感じる今日この頃、町内行事もこれらに対応しなければいけないということでしょうか。

皆様の色々なアイデアがあればなんとかなる、そう勝手に思っています。

そんな少しずつ復活している行事等の情報をお伝えすべく、第50号をお届けいたします。

最後になりましたが、記事の執筆や編集にご尽力くださいました皆様に感謝いたします。(吉川 M)

### 編集部員

市毛精彰・吉川正弘・後関圭子・坂場隆行・荻谷信之・栗原一則・鴨志田文雄・伊勢山芳裕・吉川勲  
江口孝史(地区会長)